



ガンになりやすい犬種がある？

■ 腫瘍疾患 犬種別発症率※1 (0歳～8歳平均)

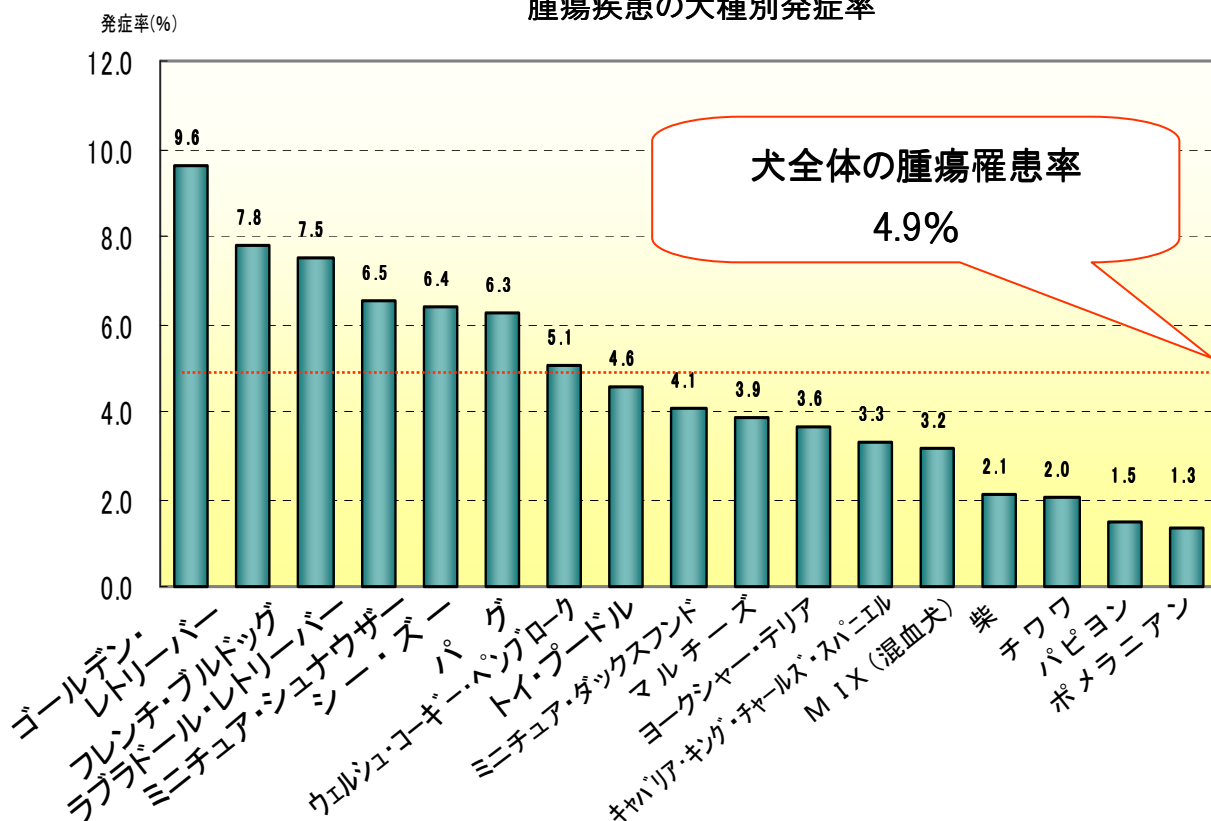
ヒトで悪性新生物、つまりガンが死因1位になって久しい※2。犬でも、乳腺腫瘍(いわゆる乳ガン)、リンパ腫、肥満細胞腫、骨肉腫など、数多くの腫瘍がみられるようになった。ヒトでは、腫瘍発生の原因として、生活習慣(タバコや日焼けなどの)など環境要因のほか、問診で家族歴をきかれるように遺伝的な要因も存在するといわれている。

犬においても、遺伝的素因が似ていると考えられる「犬種」ごとに、腫瘍の発症率に差がみられるのかを調べたところ、腫瘍疾患の発症率が最も高い犬種は**ゴールデン・レトリバー**であることがわかった。ゴールデン・レトリバーにおける腫瘍疾患の発症率は9.6%であり、犬全体の平均の発生率4.9%に比べて約2倍高い結果となった。

※1 契約期間中に、腫瘍疾患で1日以上通院した犬を「発症した犬」とし、各犬種の契約頭数に対して「発症した犬」の割合を算出。

※2 統計局 主要死因別死亡数 <http://www.stat.go.jp/data/nihon/g4821.htm>

腫瘍疾患の犬種別発症率



※ 2006/10/1～2007/9/30制度に加入したどうぶつのうち、契約期間が1年間で、契約満了または死亡解約となった犬227,876頭を対象に調査。



腫瘍疾患の発生率は、犬種によって異なる。
**「早期発見」で治療できるガンもあるため、
 腫瘍になりやすい犬種は、日ごろから全身を
 触ってあげて、定期健診を習慣にしましょう！**